

紙工作

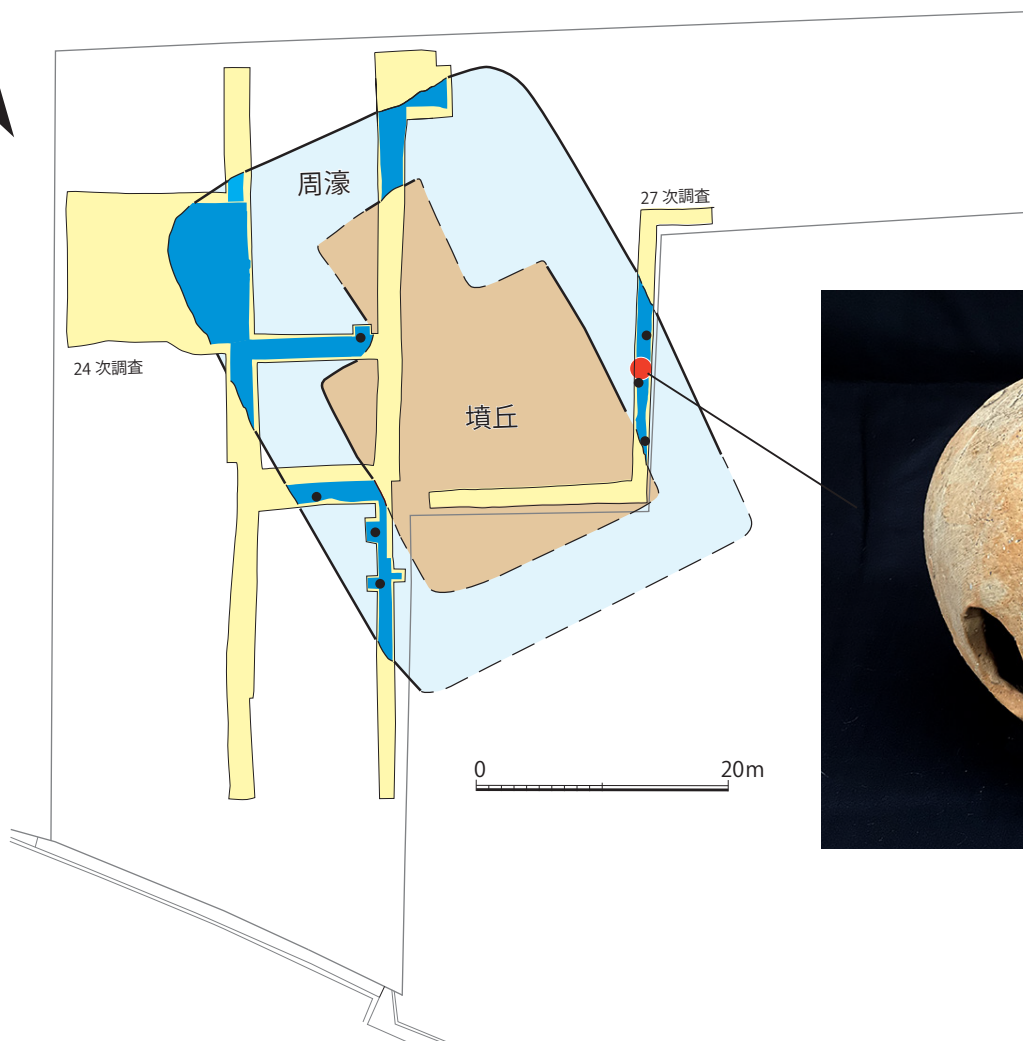
たいこがたはにわ 太鼓形埴輪

縮尺：約1/3

令和4年4月の発掘調査でみつかった埴輪で、完全な形がわかるものとしては全国初の資料です。

埴輪が出土した「みやこひらつかこふん宮古平塚古墳」は、明治時代の記録に墳丘高1m程度の塚として伝わっていましたが、その内容は不明なままでした。令和3年～4年度つくだつきほふんの発掘調査により、墳丘長20m前後、全長40m前後の造り出し付方墳であることが明らかとなりました。

太鼓形埴輪は、古墳東側周濠の中層から出土しました。墳丘上に置かれていたものが転落したと考えられます。全長28cm こだめん鼓打面直径17.5cm、胴径25cm、重さ約4.6kg。両側に鉾の表現として粘土塊を両側にそれぞれ14個/12個貼り付けています。6世紀の太鼓を写實的に表現したものとして極めて貴重です。



出土した太鼓形埴輪

宮古平塚古墳の復元イメージ